

鶴岡八幡宮の裏山・御谷(おやつ)の森を題材に

ESD(環境教育)プロジェクトを実施しました！

三井住友信託銀行では、環境専門のインターネット放送局
グリーンTV ジャパンと協働し、ESD(持続可能な開発のための教育)
プロジェクトとして、次世代を担う子供たちに向けた
ナショナル・トラスト普及啓発活動に取り組んでいます。

2012年は和歌山県の天神崎、

2013年は神奈川県の小網代の森、

2014年は岡山県の美作・水源の森を題材に、ESD プロジェクトを実施してきました。

第4弾となる企画は、古都・鎌倉のシンボルともいえる鶴岡八幡宮を見守る御谷(おやつ)の森を題材としました。



1960年代の高度経済成長期、日本中が開発ブームに沸き多くの自然豊かな土地がその対象となりました。1964年、鶴岡八幡宮の裏山の御谷の森にも宅地造成計画が持ち上がりました。行政による解決が難しく、早急な対応が必要だったことから、作家の大佛次郎氏をはじめとした文化人など鎌倉市民が立ち上がって公益財団法人鎌倉風致保存会を設立、2年後に1.5ヘクタールの土地の買い取りに成功しました。英国ナショナル・トラストを手本に活動したことから、同会は日本初のナショナル・トラスト団体といわれています。

1月30日(金)、鎌倉市立七里ガ浜小学校にて実施されたESD(環境教育)プロジェクトでは、当社社員がファシリテーターとなって、4・5年生に向けたICT(情報通信技術)を活用した環境教育授業を実施し、5年生の授業には松尾崇鎌倉市長も見学に来られました。



授業では、鎌倉には年間2,000万人もの観光客が訪れること、鎌倉の歴史的建造物が地域の人たちの手によって大切に守られてきたことなどを、映像や資料などを使って児童に伝えました。そして、御谷の森で起こったトラスト活動は“自然保護”と同時に、歴史的な文化財を後世に伝える“景観保護”の役目を果たしたことで、この運動が契機となって制定された「古都保存法」によって、京都・奈良など全国の古都が今も乱開発から守られ、古の風光を今に伝える伝統の街として息づいていることなどを学びました。

授業の最後には、「鎌倉の景観を守るために自分たちができること」について話し合う時間が設けられました。児童からは「神社などの周りに家を建てない」、「チラシやポスターを作って呼びかける」、「高齢者の人たちだけで鎌倉を守るのではなく、若い人も参加する」など、子供たち自らが考えたたくさんの意見が出ました。

松尾市長からは、「私がとても特感的だと思ったのは、森もそのままでは守れない、皆さんが関心を持つことがすごく大事だということです。そして変えるためには行動することが大切だと思います。鎌倉の先人の人たちの思いを知って、これからも鎌倉を守っていくために力を合わせて頑張っていきましょう。」と子どもたちに向けた力強いメッセージをいただきました。

この機会に、皆様の身近にあるトラスト地に興味を持っていただければ幸いです。